

特集

統合実習は “統合” されているか？

2009年のカリキュラム改正で取り入れられた「統合分野」。文字どおり専門を“統合”することを目的として設けられました。統合実習は、その“統合”の総括として位置づけられていると思われます。

実習は、それまで座学や演習で学んできたことを、実際の現場で体験・実施するもの。統合実習では、それら領域別実習の体験を統合することが求められています。実際ここで行われている「夜間実習」や「複数受け持ち実習」は、学びを“統合”しなくてはできないという前提で行われていると思われますが、果たしてそれは、本当に実習を“統合”したものになっているのでしょうか。

本特集は、以前に比べ学生が実際に行える範囲が狭くなる傾向にある実習を“統合”するとはどういうことかをあらためて考え直し、その工夫例を紹介することにより、充実した統合実習の実践につなげていただきたいと願って組まれました。

ゼネラリストである看護師には、さまざまな“統合”力が期待されます。統合実習を効果的に活用し、その力を育んでいただきたいと思います。